

コード	名 称		区分	コード	名 称	
事業名	787	文化財保存経費	会計	01	一般会計	
			款	10	教育費	
			項	05	社会教育費	
基本 施策	36	歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	目	02	文化財保護費	
			細目	434	文化財保存経費	
行革大綱の重点事項番号			細々目	51	文化財保存経費	
担当部課	コード	450400	担当者 氏名	福田典明	連絡先	22 - 9981
	名称	生涯学習課				(内線) 3840

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	市内にある指定文化財・指定文化財候補文化財の所有者	※対象件数 428以上
成果(どうする)	指定文化財の適正な保存管理を行い、後世に伝える。	
根拠法令・要綱等	文化財保護法・三重県文化財保護条例・伊賀市文化財保護条例	
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
関連事業		
H21 事業 内容	・指定文化財の保存修理事業(上野天神祭幕・春日神社大絵馬) ・民俗芸能継承補助事業(正月堂の修正会・勝手神社の神事踊・植木神社祇園祭・獅子踊・太鼓踊・羯鼓踊り・獅子神楽・日置神社の神事踊・富永的祭) ・市指定文化財候補の調査 ・国・県・市指定文化財の保存管理状況の把握と適切な保護管理についての助言 ・国史跡(御墓山古墳・伊賀国分寺跡)の草刈り ・伊賀市文化財保護審議会の開催 ・伊賀市文化財保護指導委員によるパトロール	
社会情勢 の変化等	指定文化財そのものや、文化財に係る保存施設や用具などが老朽化して修理する必要性が生じている。また、仏像などの盗難が多発していることもあり、保存施設建設や防犯設備設置の要望も強い。一方、無形民俗文化財の後継者育成も緊急の課題となってきた。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			保存修理事業の指導と助成	件	目標 2 実績 2	目標 2 実績 2
指定文化財の保存管理状況のパトロールと 適正な保護管理についての助言	件	目標 40 実績 59	目標 50 実績 60	50	50	

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				指定文化財の保存修理	指定文化財の適正な保存修理を行うことにより、文化財を後世に伝える。	件	目標 2 実績 2
文化財の指定	重要な文化財を市指定文化財に指定する。	件	目標 3 実績 1	目標 3 実績 3	3	3	

投入 コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	4,624	5,431	4,396	4,420				
A の 財 源 内 訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	4,624	5,431	4,396	4,420			
事業投入人件費(B)	1.5人 10,800	1.5人 10,800	1.5人 10,800	1.5人 10,800				
フルコスト(A)+(B)	15,424	16,231	15,196	15,220				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第3者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	○ 文化財の保存・修理を行うことにより、適切に文化財を後世に伝えられている。
達成度	当初設定した計画を <input type="text" value="100%"/> 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 <input type="text" value="無"/> 【予算の繰越がある場合、繰越の種類】 <input type="text"/>	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○ 保存修理工事を行う場合、国・県の補助を受けて事業を進めている。

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	文化財の適正な保存に加えて、天神祭講演会・おはやし体験・子ども学習スタンプラリー等の市民の参加による活用、さらにふるさと文化再興事業による映像記録作成(県事業・市協力)を通じて、文化財愛護意識の高揚と地域への愛着を高めていきたい。
昨年度の取組状況	【状況】 <input type="text" value="計画のとおり進んでいる"/> 【詳細】 講演会、体験学習への参加が増加傾向にあり、文化財に対する興味・関心の高まりが感じられる。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	榎田 ちえみ
事業の方向性	【方向性】 <input type="text" value="現状維持"/> 【理由】 文化財の現状保存・修理を継続して実施するとともに、映像・音声を含めたさまざまな手法による記録保存を図る。また、多くの市民が参加できるような形の文化財の保存・活用事業を継続して実施していく。
現時点における課題、その他	講演会・体験学習・講座等、広い範囲・年齢層の市民を対象とした事業を実施しているが、内容自体が固定化しつつある。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	各種の公民館講座やサークル活動と連携するなかで、より多くの参加者を募る。また、文化財そのものの価値に触れる体験的な活動を、2・3年後を目標に増やしていく。